2022年度　「羽ばたけ！若手教職員PJ」

長期コース

氏名	学院	所属塾	訪問国	共同研究の題目	出発日	帰国日	期間	訪問先
麻生　尚文	理学院	広域基礎研究塾 2期生	アメリカ	深部低周波地震の包括的理解	2022/10/31	2023/3/4	約4か月	①UC Berkeley ②ｱﾒﾘｶ地質調査所(Golden) ③AGU Fall meeting(Chicago)
倉元　昭季	工学院	広域基礎研究塾 4期生	ドイツ他	Biomechanical modeling of work movement and its comfort for individuals	2022/11/8	2023/2/5	約3か月	①ミュンヘン工科大学 ②アーヘン工科大学 ③デルフト工科大学
白根　篤史	科学技術創成研究院	広域基礎研究塾 3期生	アメリカ	宇宙ロジスティクスによる衛星コンステレーションの最適構築法の研究	2022/10/29	2023/3/15	約4.5か月	①ジョージア工科大学(ｱﾄﾗﾝﾀ) ②Keysight社(ｻﾝﾀﾛｰｻﾞ) ③ISSCC(ｻﾝﾌﾗﾝｼｽｺ)

短期コース

氏名	学院	所属塾	Annex	国際連携の題目	出発日	帰国日	出張日数	訪問先
三木　卓幸	生命理工学院	広域基礎研究塾 1期生	アメリカ	自己集合性ペプチドタグを活用した海外との連携と共同研究	2022/10/30	2022/11/13	約2週間	①GRConference(LA) ②Syracuse Univ.(Syracuse) ③UC Berkelay
當麻　真奈	工学院	広域基礎研究塾 3期生	ドイツ他	表面ナノ構造を駆使した高性能バイオセンサに関する研究	2023/1/30	2023/3/2	約1か月	①ユーリヒ総合研究機構 ②アーヘン工科大学 ③レンヌ第一大学 ④AIT(オーストリア技術研究所) ⑤ミュンヘン工科大学
田島　真吾	科学技術創成研究院	広域基礎研究塾 3期生	アメリカ	レーザ加工の高速高精度化を目的としたデュアルドライブシステムの軌道最適化	2022/10/4	2022/11/6	約1か月	①オレゴン州立大学 ②ASPE参加・発表 ③オレゴン州立大学
香月　歩	環境・社会理工学院	広域基礎研究塾 4期生	ドイツ他	歴史的空間を基軸とした地域イメージ研究のための国際連携の基礎構築	2023/2/21	2023/3/14	約3週間	①アーヘン工科大学 ②フランクフルト市内視察 ③ケルン市内視察 ④パリ市内視察 ⑤ロシュフォール・アンテール視察（レンヌ大学）

出張者の感想

・実際に顔を合わせて研究・実験することで，議論もしやすく普段のZoomでの打ち合わせと比較すると格段に研究が進んだ.
・本派遣事業は、海外での学会参加が必須ではなかったので、現地でのセミナーやラボツアー、研究打合せに集中することができた。また、複数の訪問先に滞在できたのも有難かった。
・海外の研究者と長期間にわたり議論を進める初の機会となった．他にも複数の研究機関を短期間訪問したが，時間をかけて人間関係を築くことも議論を深める上で重要だと感じた。
・初めての海外派遣であり、非常に有意義な時間を過ごすことができた。インフレと円安で、日本との物価の差にやや驚いたが、費用としては、十分な援助をいただけた。
今後もこのようなプロジェクトを続け、多くの若手教職員が海外の大学、研究機関に滞在できる機会を継続していただければと感じた。
・金銭的な面で米国滞在を諦めたり、日程を短縮しようと思っていたが、本事業による支援によって研究者として充実した２週間を滞在できた。
大学訪問によって、実際に２件も共同研究に関して具体的で実践的で建設的な議論ができた（今後も、実験データを互いに共有し議論を継続することとなった）。
今回の米国滞在は、同世代の研究者らと友人になれ、研究に関してアイディアが湧き出てくる契機となり、更に国際共同研究というステップに自身の研究を移行する重要な局面となった。
この派遣支援事業は継続すべきであり、閉塞感のある今の日本の大学で一番支援すべきことではないか、とさえ思う。

出張者からの意見・要望

・基礎研究機構による出張であったため、通常の所属における出張に対して、部局毎の出張命令権者の判断による慣例（土日の用務の取り扱いなど）が異なり、戸惑うことも多かった。
・プロジェクトの採択は、多少遅くても大丈夫かと思うが、本プロジェクトの準備を促すタイミングは早い方が良いと思う。
特に授業関係の調整で、2023年10月出発であれば、2023年1月あたりから調整しないとスムーズに授業の調整を行えない印象だった。
・現地での共同研究を行うためには，出発までにある程度各自で研究を行う準備期間が必要だと感じた。
もし，今後も派遣支援事業を継続頂ける場合は，来年度の案内を早めに出し，研究計画および準備をする期間が長い方が良いと思う。
また，授業を担当している場合の調整も難しい場合があるため，制度上可能であれば年度の前半でも派遣可能であると良いと思う。
・さらに長い1年間の派遣という選択肢があると、さらに研究成果が充実すると感じた。
・家族（妻や小さい子供）と一緒に海外で滞在しやすいシステムがあると、家族を説得しやすく、家族が原因で派遣PJに応募できないという人が減るかもしれないと思った。
例えば、託児所の費用の補助や、現地の車調達の補助など（一人で滞在なら車が無くても大丈夫ですが、家族で行くとなると必須と感じた）。
・幼い子供がいる若手教員も少なくないと思うので、今後は家族の渡航費や保育所利用費の一部補助などもご検討頂けると有難い。